

～ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「わかりやすい授業づくり」～



「道具」を工夫しよう！

【指導室 特別支援教育班】

葛南教育事務所では、令和4年度葛南教育事務所重点目標の一つとして、「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた『わかりやすい授業づくり』」を掲げています。今回は、「道具」の工夫について考えてみます。

身体的な不器用さがある、見ることや書くことに苦手さがある、行動の切り替えに苦手さがある等、学校には様々な児童生徒がいます。児童生徒の様子に合わせて道具を工夫することで、活動に取り組みやすくなる場合があります。

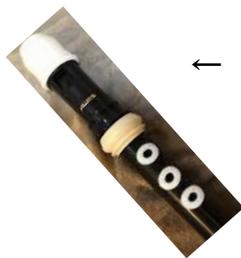
視力に応じて眼鏡を使用したり、左利きの人が専用のはさみを使用したり、海外旅行の際に翻訳機を使用したりするように、必要に応じて道具を効果的に使っていきましょう。

Point 1 ～ 扱いやすくする工夫 ～

★道具を固定することで、扱いやすくなる場合があります。



★滑りにくい定規、回しやすいコンパス、目盛りが分かりやすい分度器、穴を押さえやすいリコーダー等、様々な文具等が市販されています。状況に応じて活用します。



← 魚の目パッドをリコーダーの穴に合わせて貼ることで、穴を見付けやすくしたり、隙間なく押さえやすくしたりする工夫もあります。

★複雑な動作を要する活動では、児童生徒の実態に応じて、道具を工夫することで、動作を単純にします。

キック練習の例



甲羅キャスター



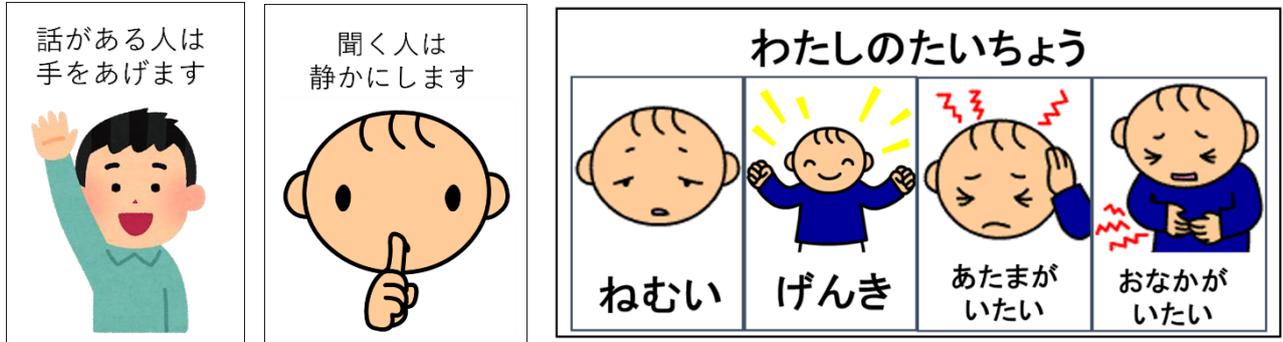
箱ボール
(段ボール箱に、ボールのイラストを貼る)



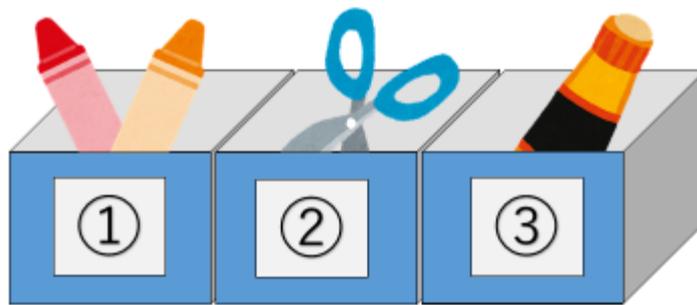
ビーチボール
(空気を少し抜く)

Point 2 ～ わかりやすくする工夫 ～

★手を挙げる時、静かにする時、声の大きさを意識する時、体調を伝える時等、カードを使うことで気付きやすくなったり、表現しやすくなったりすることがあります。



★活動の手順に合わせて道具を並べたり、番号を付けたりすることで、手順を理解したり、物を整理しながら活動したりすることができます。



用意した道具は、教科や単元ごとにパッケージにまとめておき、学校全体で共有するなどして、効率良く準備できるようにしていきましょう。

こちらも参考にしてください。

「学びの困難さに対する指導の手立て集」
(令和4年3月 千葉県教育委員会)

「支援教材ポータル」
(国立特別支援教育総合研究所)

